

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	生物多様性保全事業	会計	一般会計	事業No.	324	施策順No.	51-001
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-1-5-13-3		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	環境課		
施策	51 自然の保全			事業期間	開始	21	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	環境省カテゴリーで絶滅危惧種IA類以上に指定されている、又は特に保護が必要と認められる場所の希少野生植物／市内の希少野生植物等／環境調査員					A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない					
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)						19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
		盗掘やニホンジカによる食害等で、著しく減少している群落または個体数							約2群落			約2群落
		市内の希少野生植物等／環境調査員										
意図	植物単体の保全や群落の復元を図る／調査による市内の希少野生植物等の把握と環境調査員(環境チェッカー)の育成・レベルアップを図る											
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)					19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	防護柵設置等の箇所数							2	1	1	1	A
	希少野生植物の確認数(種類、個体数)											
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価あり】	様々な主体の協力の下、目標どおり設置ができた。											

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	絶滅危惧に指定される希少野生植物の保全 1 環境省カテゴリーで絶滅危惧種I類以上に指定されているなど、絶滅が危惧されている植物の自生地をシカの食害等から守るため、シカよけの防護柵などを設置するための資材の購入 2 「ヤシャイノデ保全の会」などを中心にボランティア活動で防護柵を設置する 3 目標として約20年前の状況(部分的に下層植生はヤシャイノデ等が覆う状況)まで復活させる 4 次期環境基本計画策定に向けて希少野生植物の調査を行う 5 伊那谷自然友の会などの専門分野の方を講師として環境調査員(環境チェッカー)の育成・レベルアップを図る		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 兎岳山頂下100m付近の高山植物が群生するお花畑(面積1,100㎡)の周囲に、シカ除け用防護柵(長さ150m)を設置 遠山山の会の会員、ボランティア、南信森林管理署、伊那市、飯田市林務課、環境課、南信濃自治振興センターとの協力により実施	1 保全箇所数	1 1カ所
	2 長野県環境保全研究所から講師を招き、環境調査員(環境チェッカー)の育成・レベルアップを図った	2 環境チェッカー研修会	2 2回開催
23年度実施計画	1 次期環境基本計画策定に向けて希少野生植物の調査を行う 2 必要に応じて、生物多様性を保全するための措置を講ずる 3 伊那谷自然友の会などの専門分野の方を講師として環境調査員(環境チェッカー)の育成・レベルアップを図る	1 回数 2 箇所数(面積) 3 回数	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	民間との協働による山岳環境保全事業補助金(県補助10/10)
	国庫支出金					
	県支出金		2,062	2,062		
	起債					
	その他					
一般財源		303	27	290		
計(A)		2,365	2,089	290		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			2,089			

4 事業に対する市民や議会の意見

早急な対策が必要である。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムトス指標	指標動植物の観察数
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	貴重な植物群落等の保全が行われている。ヤシャイノデ等や高山植物等の生育状況を確認しながら、被害の状況を把握し、保護策を講じることで個体数の増加につながっている。	
	後期に向けた課題	希少野生植物の調査と生態系の回復状況の観察。	
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	シカ食害対策として防護柵を設置。	
	後期に向けた課題	関連する機関及び自然保護団体との連携を図り、効率的な対策を行うことが必要。	
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	鳥獣対策など他部署との連携による対策を行い、効率的に事業を進めた。ボランティア活動の活用により、材料費など必要最低限の支出で事業ができています。	
	後期に向けた課題	関連する機関及び自然保護団体との連携を図り、効率的な対策を行うことが必要。	
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	国、県共にヤシャイノデ等の希少野生動植物の保護対策に対して財政面での負担・支援をしている。市も市有林の部分に資金を投じることは妥当であり、負担の程度も妥当である。	
	後期に向けた課題	今後も必要な部分への支出が必要。	
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①伊那谷自然友の会、遠山山の会会員等による監視、現状の把握、防護柵設置協力などが行われた。 ②関連機関、団体との調整、材料費などの負担。	
	後期に向けた課題	今後も連携を図り、食害等の状況把握、対策の実施を行う必要がある。	
全体を通じて	4年間の振り返り	各種主体の協力により一定の対策が講じられ、貴重な植物群落や高山植物の保全が図られてきた。	
	後期に向けた課題	設置した柵に関しては長期的な調査・監視を行い、他の群落等への対策の検討が必要。	

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------